

令和4年度奈良県肝炎対策推進協議会 議事録

(1) 「令和3.4年度肝炎対策事業の取組概要について」について

(2) 奈良県肝炎対策ガイドラインの進捗管理について

<主な質疑応答>

(委員)

市町村別の肝炎ウイルス検診の実績の表を提示してほしい。また、重症化予防事業について、令和3年4月に対象が拡大し、治療後の定期検査も対象となったが、奈良県では実績の伸びが少ない。こういった形で拾い上げを行っているのか。また、肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業についても、対象が拡大したが実績が伸びていない。全国的には実績が伸びているにも関わらず奈良県で伸びていない理由は何が考えられるか。

(会長)

肝炎ウイルス検診の受診率については、奈良県はようやく最下位を脱したものの、未だに低位置にいる。資料1の図4の表では全国平均を上回っているが、厚生労働省が出している値では、もっと低い数値となる。

(事務局)

図4は40歳以上の数値になる。厚生労働省が出している受診率の値は20歳以上の全員を対象としているため、値が異なる。

(会長)

20歳以上全員を対象とした受診率について、全国平均に近づけてほしい。広島県の田中先生の話によると、C型肝炎のウイルス保持者でまだ治療をしていない人の割合が、奈良県は全国で10位以内に入っており、全国平均よりもかなり高いと思われる。医大でも、肝臓がんが破裂して初めて病院にくるといった人がいた。肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業については、全国的にも、当初想定していた申請数と比べると少ない状況。

(関係者)

2021年の1年間で見ると、該当する治療を受けている患者20名のうち、助成の要件を満たすとなったのは3名のみ。所得制限が大きな壁となっているのではないかとと思われる。

(会長)

引き続き、各医療機関や行政から制度の周知をお願いしたい。

(3) 肝疾患診療地域連携体制強化事業における拠点病院の取組について（肝疾患相談センターから報告）

<主な質疑応答>

(会長)

肝炎医療コーディネーターについて、奈良県は養成研修会を開始するのが遅かったが、養成数は順調に増えてきている。対象を拡大しながら、養成数をさらに増やしていきたい。リーダーコーディネーターの取組についても、注目されている。院内肝炎陽性者拾い上げは非常に有効なので、各医療機関でも実施していただきたい。

(4) 令和5年度肝炎対策事業について

(5) 肝炎医療コーディネーターの配置について

(6) 奈良県肝炎対策ガイドラインの見直しの方向性について

<主な質疑応答>

(委員)

肝炎医療コーディネーターについて、患者団体をコーディネーターの対象にするというのは長年患者会から要望してきたことであり、実現して非常に嬉しい。奈良県の肝炎医療コーディネーターについて、居住地の制限はあるか。

(関係者)

居住地による制限はない。

(会長)

厚生労働省が実施している事業で、知って、肝炎プロジェクトというのがある。全国で行っていないのは奈良県を含めて3都道府県のみ。ぜひ、奈良県でも検討していただきたい。

(委員)

肝炎の啓発活動について、吉治先生や赤羽先生が色々な活動をされていて素晴らしい。コロナの影響で令和2年度から検診控えがあり受診率が下がっていたと思うが、大分回復してきた。

(委員)

他府県の取組みとして実施されていたと思うが、対象となる人全員にカードを送付して、そのカードをかかりつけ医に持っていき、検査の結果を記録するといったやり方かどうか。

(会長)

実際に実施して効果を上げている自治体もあるが、実施しようと思うと予算や人員の面が厳しい。

(委員)

肝炎医療コーディネーターやなら肝体操について、看護協会を通して看護師に周知ができると良いと思う。リーフレットをもらえたら協会所属の看護師に配布する。

(会長)

看護師は患者に近い立場にあたる方々。ぜひお願いしたい。

「肝炎医療コーディネーター対象の拡大および活動の現状把握」「奈良県肝炎対策ガイドラインの見なおしの方向性」について承認された。

その他：患者会からの要望

(委員)

今回は協議会の資料を事前に配付していただき、事前に確認した上で協議会に出席することができたのでありがたい。SDGsの目標の中で肝炎について言及され、また、肝炎の基本的方針の中で、肝炎の完全な克服を目指すということが明記され、嬉しく思う。

(会長)

最近、生活習慣病、特にアルコールによる肝炎が増えている。それらの知識についても、正しく身につけて行ってほしい。